

事業名		代表者所属	山口大学大学院 創成科学研究科
16 KJ-019		代表者	准教授 幡谷 泰史
山口大学理学部		開催地	山口市
サイエンスワールド2016		助成金額	15万円
活動概要	<p>日時 2016年11月6日</p> <p>場所 山口大学 吉田キャンパス 第2学生食堂</p> <p>対象 小中高校生・一般市民 参加者(人) 1,056 内訳(小中高の先生; 不明)(生徒; 399 人)</p> <p>内容 大学生による科学を紹介する企画ブースの出展、実験室や研究室を訪問して実験を体験するツアー、博物館との連携による出展。</p> <p>講演; 0 件、発表;22 件、シンポジウム;0 件</p>		

### 事業の目的・ねらい

大学の研究活動を、教員と学生が主体となって企画する様々な展示・体験を通じて、地域住民に楽しみながら理解してもらうことによって科学の啓発促進を行い、子供たちの理科離れの解消に貢献する。

### 事業の概要

2016年11月6日に、山口大学の山口市にある吉田キャンパスにおいて、小中高校生・一般市民を対象とした

自然科学の展示・体験企画「サイエンスワールド2016」を実施した。当日は、

出展ブース数: 15 (理学部学生 12、学外博物館 3)

来場者数: 1,056 名(のべ人数 内訳:一般 409 名、小学生 368 名、未就学児 116 名、中高校生 31 名他)

#### 出展内容

- ・幾何学模様を描こう
- ・やろうよ!! 確率
- ・これが物理だ!! Doki<sup>2</sup> サイエンスコースター
- ・動かしてまなぼ!
- ・ペットボトルサイエンス
- ・マーブルシュミレーター~ビー玉で、遊ぼう♪~
- ・体感しよう! 自然の力!!
- ・バイオミミック~ムシのハネを折ってみよう~
- ・クリスタライゼーション~結晶化の不思議~
- ・スーパーボールをつくろう!!
- ・デンキ、ゲットだぜ!! GO±(出展:教育学部理科教育講座の学生)
- ・様々なレールを使ったボールレース(出展:教育学部理科教育講座の学生)
- ・工作「かんたんエコー電話」(出展:防府市青少年科学館ソラール)
- ・工作「バランスマン」(出展:防府市青少年科学館ソラール)
- ・博物館がやってきた!(出展:山口県立山口博物館)

また、理学部ミステリーツアー(理学部内を巡りながら実験を行う科学アトラクション)は2コース7実験室:

- ・光の館
  - ・風の館
  - ・泡の館
  - ・プルプルの館
  - ・魔法のシート
  - ・地の館・魔法の本
  - ・小さな大脱出
- を出展した。

## 成果・効果

来場者数は1056名(内訳:未就学児116名、小学生368名、中高生31名、一般409名他)であった。

実験室を訪問し眼前で科学実験・体験アトラクションを行うミステリーツアーは、収容人数の制約があり、また一回の束縛時間も長いため一度に多くが参加できない。同時に2つのコースを実施することで希望者ができる限り参加できるよう企画の拡充を行った結果、今回は合計317名のツアー参加があった。

来場者アンケートによると、

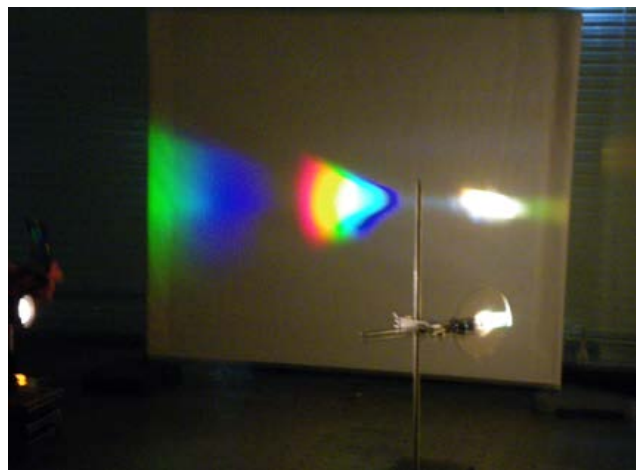
- 来場者の約1/3は過去にも来場しており、今回で18回目になる本事業は地域に根付いたことが読み取れる。
- 約97%の来場者が「また来たい」と答えており、(知識の羅列ではなく)来場者の手で行う科学実験・目で繰り広げられる科学体験による素直な驚きなどの期待に応えることができたと自負する次第である。
- 来場者の約1/4は山口市外(主に山口県下の下松、宇部、周南を筆頭に福岡、尾道まで)から来場しており、山口大学理学部の科学研究の成果を広く社会へ還元する責務を果たすことができた。同時に山口県近辺の市民の方々からの、閉ざされたイメージのある大学の研究を知りたいという要望・需要が大きいものであると痛感した。
- このような遠方からの来場者は山口大学の立地の制約から、交通手段として車を使わざるを得ず、その結果小学生などの親子連れが多く中高生が少なくなることもやむを得ない。このような背景から、今年度は小学生でも分かり易いよう企画内容に配慮を行った。



大学生の指導の下で、水中で音の発生を実



実験室訪問型ツアーで化学実験をしている



実験室訪問型ツアーで、白色光の屈折の実験の様子



力学エネルギーをボールレースで体験